

関西の「教育関係者ファミリー」にお送りする総領事からのメッセージ(第2号)

8月に続き、二回目のご挨拶となりました。

前回のメッセージは、民族学校、民族学級、ハングル学校、そして韓国教育院、韓国文化院(世宗学堂)に所属する教育関係者の皆様にお送り致しましたが、今回はこれらに加え、韓国語採択校の先生方で構成される「高等学校韓国語教育ネットワーク(JAKEHS)」の会員や専門学校で韓国を教えていらっしゃる先生方にもお送り致します。新型コロナによって直接お会いできる機会が減ってしまったことは非常に残念ですが、この様にSNSを通してたくさんの方々と同時かつ迅速に意思疎通ができるようになったのは、**皮肉にもコロナがもたらしてくれた「賜物」**と言えるかもしれません。

先月8月15日は、韓国が日本の植民地から解放されて以降、75周年を迎える光復節でした。当館の管轄内にある各地域の民団主催の記念式典に参席して、繰り返し大統領の祝辞を代読しながら、私は以前とは違う韓国の立ち位置を、改めて肌で感じました。

文大統領は、韓国大法院(日本の最高裁判所に当たる)の強制徴用判決に関して言及し、「一個人の尊厳を守ることが、すなわち国に対しても益となり得るという事実を噛み締めるべきである」と述べ、また「**日本と韓国が共に力を合わせて一人の人権を尊重する時、両国民の間には友好と協力が生まれるであろう**」と付け加えました。さらに、「祖国は同胞達を守りきれなかったが、逆に彼らは『お米一匙ずつ』をそれぞれが持ち合わせる気持ちで、韓国臨時政府の独立運動資金を自らの身を削って捻出し、海外における独立運動の土台となってくれた」とし、「大韓民国は、今後国民一人たりとも見離すことはない。それほどにまで成長したし、同時に自信もある」と強調しました。これは、**人権国家としての韓国の立ち位置と、今後の道を示したのだ**と思われまます。

大統領が表明した自信は決して大げさでも、虚勢でもありません。韓国は、今や世界トップ10に入る**経済大国**として肩を並べており、また「韓流」を通して明らかになっている様に、世界中の注目を集める**文化大国**でもあります。ちょうど9月の初日に私は、防弾少年団(BTS)が、韓国人アーティストとして初めてビルボードのシングルチャート1位を記録したというニュースを耳にしました。

関西におられる教育関係者の皆様も、韓国の発展した姿に目を向けてみてください。

韓国語及び韓国文化は、韓民族としてのアイデンティティを保つツールとしての次元を越えて、世界中の人と対話し、**共感を得るために必要な土台としての地位を確立しつつ**あります。韓国的なものがすなわち世界的なものであるという自尊心を子ども達に育み、**韓日関係の架け橋**として、さらには**世界を舞台に堂々と活躍するリーダーとしての成長を手助け**することが、我々関西における教育関係者の使命ではないかと考えます。

8月11日に発表されたOECDの統計によりますと、**2020年、韓国の経済成長率は△0.8%**となる見込み(日本 △6.0, 米国△11.3)で、**OECD会員国全体の中で1位**であり、またコロナの余波が続くであろう**2020年及び2021年の2年間**を合わせてみても、プラスに成長する唯一の国家として名前が挙がりました。民主性、透明性、参加型の**3本柱**を原則とした**K-防疫の実行**と、デジタル及びエコを中心とした**経済対策の賜物**であります。残念ながら、8月中旬に入ってから**新型コロナ感染者数が300名以上に急増**してしまったことにより、「発展」と「防疫」、二兎を追う戦略の妥当性が改めて問われておりますが、状況は近々落ち着くと私は確信しております。

コロナ禍に対するこれまでの対応から、私たちが得た教訓は明確です。

今まで忍耐しながら必死に積み重ねてきた防疫の努力が、日常生活における気の緩みにより、一瞬にして水の泡になってしまうかもしれません。しかし、だからと言って必要以上にコロナを恐れてやるべきことを先送りにしたり、また回避したりしてしまうと、今度は別の後退現象が起こるはずです。日常生活において、**徹底した予防習慣が必用条件**とするならば、**コロナの時代に合わせてクリエイティブな対応を練り出して**いくことが、**ポストコロナ時代において、世界の先駆けとなる十分条件**となるのではないのでしょうか。

教育現場においても同じ様に言えると思います。日常生活におけるコロナ対策を徹底した上で、どうしても**実行すべき事柄は、オンラインの活用など先駆的な方法を積極的に導入しながら実施**していくべきだと考えます。例えば、**対面-非対面(オンライン)の併行授業**は、**ポストコロナの時代において、避けては通れない道**です。今回の件を機に、**タイミングが少し前倒し**になったと思って、**今後は対面-非対面の併行授業を定着**していただくことを期待しております。

関西における全ての教育機関同士の協力を、改めて強調させて頂きたいと思っております。

関西は、**韓国語及び韓国文化を教えている機関が世界で最も多い地域**です。民族学校**3校**(白頭学院、金剛学園、京都国際学園)をはじめ、民族学級が**185学級**、ハングル学校が**49校**、韓国語を第二言語として取り扱っている日本の学校が**66校**、韓国(語)学の授業を抱える大学が約**140校以上**存在します。これらに加え、**京都韓国教育院、奈良韓国教育院、大阪韓国文化院(世宗学堂)**も、**韓国語や韓国文化の講座を運営**しています。この様にたくさんの機関が存在するにも関わらず、異なる機関同士の**連繋や意思疎通が不十分**である現状が、私には**大変もったいなく感じ**られます。例えるなら、**藁の材料である萩の枝は十分あるのに、それらの枝をまとめて一つの藁として使いこなせていないような状況**に似ているのではないのでしょうか。

しかしながら、最近になって徐々に連繋に向けた動きが現れ始めています。大阪韓国教育院は、先月8月12日に民族学級講師の研修会を開催しましたが、建国学校の校長先生をはじめ、他の民族学校に勤める先生方も参加し、民族教育に対する想いを共有しました。また、京都国際学園は、社会科の副教材として『関西の残された朝鮮通信史の足跡』という冊子を発刊しました。当館と京都国際学園は、今月の27日、関西の教育関係者達を招待し、本誌を利用した授業案などを共有するためのセミナーを開催予定です。また、教育領事は、来年上旬を目標に、関西における全ての教育関係者が一同に集まる「関西教育者大会(仮)」を企画しております。今後、言葉ではなく業務を通して繋がり、協力し合う様な動きが更に活性化することを切に願います。

最後に、今回新しく赴任された京都教育院長と奈良教育院長を皆様にご紹介致します。姜星真院長の後任に李竜薫(イ・ヨンフン)院長が京都韓国教育院長として、また金亨根院長の後任に宋達庸(ソン・ダルヨン)院長が奈良韓国教育院長として着任されます。お二方とも、直前まで国立国際教育院に勤務されておられました。元教員という経歴を持ち、その後は教育部の研究官、課長を歴任しておられるため、教育現場だけでなく教育行政に関しても熟知しておられる方々です。入国が少々遅れておりますが、9月中には皆様にご挨拶できるかと思っておりますので、どうか温かくお迎え頂けると幸いです。

最近、私がお会いする方には必ずお声掛けしているこの一言で、最後の挨拶に代えさせて頂きたいと思っております。「コロナの治療薬やワクチンが開発されるまでは、マスクと消毒が治療薬であり、ワクチンです。皆様くれぐれもご健康にお気をつけて、この9月も力いっぱい乗り越えましょう。」

それでは、次のメッセージをお送りするまで、どうぞご自愛くださいませ。

2020.9. 駐大阪大韓民国総領事館 吳泰奎